

3年 世界史A 課題(5/15-21)

*教科書P64-65 を読みながら、空欄(1)～(48)に適する語句をルーズリーフに書きなさい。ただし、文中に空欄に入る語句が出ている場合がある。

*問1・2の解答をルーズリーフに書きなさい。

*ただ空欄を埋めることだけに注力するのではなく、文章の意味をできるだけ把握しながら進めてください。

地図が命

*世界史の学習では

P64の地図で、**スペインとオランダの位置を確認**しておきましょう。

*1学期の世界史Aの初回の授業で提出すること。

主権国家体制の成立(P64)

大航海時代のころからしだいに、ヨーロッパ各地で、中央集権的にまとめられた(1)と独立の(2)をもつ国家が形成されていった。それらの(3)は、国家が中心となって貿易・外交・軍事を管理し、富国強兵につとめ、(4)と(5)の拡大を求めて戦争をおこした。主権国家は、外交や戦争においてその場の利害に応じてたがいに同盟を組んだり、敵対しながら自国の国家利益を追求した。

17世紀以降には、盛んに海外進出をおこなった(6)・(7)・(8)が、(9)を展開した。(10)年、(11)の終結のためにむすばれた(12)のころから、ヨーロッパでは、(13)と(14)を中心とする中世的秩序にかわって、主権国家の間に新しい国際政治秩序がつくられていった。その秩序においては、主権国家はそれぞれ独立しており、法的に対等であり、どれか一国が強力な力をもとうとするとそれを妨げようとする(15)の原則がはたらいっていた。こうして17世紀のなかばころには、明確な(16)で区切られた主権国家が並びたち、離合集散をくりかえしながら競いあう(17)が成立してきた。

絶対主義国家(P64)

16世紀から18世紀のヨーロッパでは、主権国家の(18)が権力をにぎる(19) (20)とよばれる政治体制がみられた。これは、封建諸侯の力が弱まるなか、国王が中央集権的な国家を形成し、(21)・(22)・(23)を通じて「絶対的な」権力をもつ政治体制であった。国王は官僚制や

ここからP65

常備軍の維持に必要な財源を得るために大商人とむすびつき、(24)をとった。絶対主義のもとで資本主義的な経済活動が成長したが、特定の大商人に特権が与えられ、一般の商人の自由な商業活動は認められず、商工業のいっそうの発展は妨げられた。また、旧来の身分制が温存され、国王はその基礎のうえに統治をおこなった。

スペインの繁栄とオランダの独立(P65)

(25)年に国家を統一し、(26)と競って海外に進出したスペインは、16世紀には(27)出身の国王(28)が(29)(カール5世)を兼ねて広大な領土を得た。続く(30)のもとでは、(31)で(32)をやぶり、ポルトガルも併合して強力な絶対主義国家として繁栄したが、(33)からもたらされたゆたかな(34)は(35)と宮廷の(36)に消え、国内産業の発展にいかされなかった。

スペイン領のあなかで経済の中心は(37)であった。(38)の中心であったスペインは、フェリペ2世の時代に(39)(カルヴァン派)の商工業者が多いオランダに(40)を強制したため、オランダは反発して戦争となった。(41)年、スペインの(42)(43)がオランダを支援する(44)治下の新教国(45)にやぶれ、スペインは17世紀に衰退に向かった。オランダはスペインとの戦争中の1581年に(46)として独立を宣言し、17世紀はじめに事実上の独立をはたした。17世紀前半にはさかんに海外に進出して栄え、首都(47)は世界の商業・金融の中心となったが、17世紀後半にイギリスとの(48)を経て勢力が後退した。

問1 『戦争と平和の法』をあらわして、国際法の確立を提唱した人物をP64のページ数の上を読んで答えなさい。

問2 オランダが1602年に設立した会社をP65のページ数の上を読んで答えなさい。